

## 2学期始業式 校長講話 … 一つだけの音



### 「一つだけの音」

みなさん、おはようございます。楽しい夏休みを過ごすことができましたか？ 今日から2学期が始まりました。この学期は、音楽会や秋の自然に親しみ、親子ふれあい活動など、楽しい行事がたくさんあります。健康に気をつけて、笑顔で生活ができるようにしていきましょう。まずは、約1ヶ月後、9月16日の音楽会のごことが、みなさんの目標になっていきそうですね。これから毎日、みなさんのすてきな歌声や楽器の音が聴けることを楽しみにしています。

実は、今日、ある楽器を持ってきました。シンバルです。(実際に鳴らして)大きな音がしますね。今日は、このシンバルのお話です。

た  
こ



### ドヴォルザーク

- ・1841年9月8日 生
- ・チェコの作曲家
- ・チェロ協奏曲や交響曲を数多く作曲

ドヴォルザークという音楽家で作った交響曲の一つに、「新世界より」とい曲があります。



youtubeより

【オーケストラ映像はこちらのQRコードからご覧いただけます】

この曲は、全部で4つのまとまりでできていて、全部演奏すると、だいたい45分かかります。1時間目の授業が全部終わってしまうくらい長い曲です。

この曲の中で、シンバルの出番は1回だけです。

一番最後、第4楽章が始まって2分くらい経ったところで、たった1回鳴らすだけです。

では、オーケストラが演奏している映像がありますので、第4楽章を見てください。シンバルの出番に注目してみてくださいね。



わかりましたか。とても静かな全体の演奏に溶け込むように、そっと鳴らしていましたね。このシンバルを演奏した人は、これでこの曲の仕事が終わりです。でも、この1回のシンバルの音がないと曲になりません。だから、シンバルを担当する人は、第4楽章までずっと緊張を切らさずに持ち続けて、この1回の音に全てをかけるのです。見てください。この真剣な表情。指揮者を見つめる目。

実際にこの曲でシンバルを担当した人の話では、最初からずっと、シンバルをたたく位置に構えているそうです。そして、「シンバルを持つ手の位置はこれくらいかな。」「右手や左手の力はこれくらいかな。」「静かに合わせるぞ。」などいろいろな事を考えているそうです。ステージに上がって30分以上、この瞬間のことだけをずっと考えているわけですから、凄い集中力と精神力が必要でしょうし、すごいプレッシャーもかかると思います。

みなさんは、このシンバルのように出番が1回という人はいないかもしれませんが、出番の多い人も少ない人も、みなさんが出す音は一つだけの音、自分だけの音なのです。それが全てそろって、初めて合奏や合唱になります。一人ひとりが、出番じゃないときも集中して

友達の音や声を聴きながら、自分の出番や役割をしっかりと果たせたとき、素晴らしい演奏になるのだと思います。全員ですてきなハーモニーを響かせてください。みなさんの演奏を聴くことができるのを楽しみにしています。がんばってください。

一つだけの音

自分だけの音

自分だけの声

一つだけの声

そろろう

がっそう がっしょう  
合奏や合唱

ぜんいん こころ  
全員の心をあわせた

おんがくかい  
手良小学校音楽会に